

都市再生整備計画 事後評価シート
JR柳ヶ浦駅周辺地区

令和6年1月
大分県宇佐市

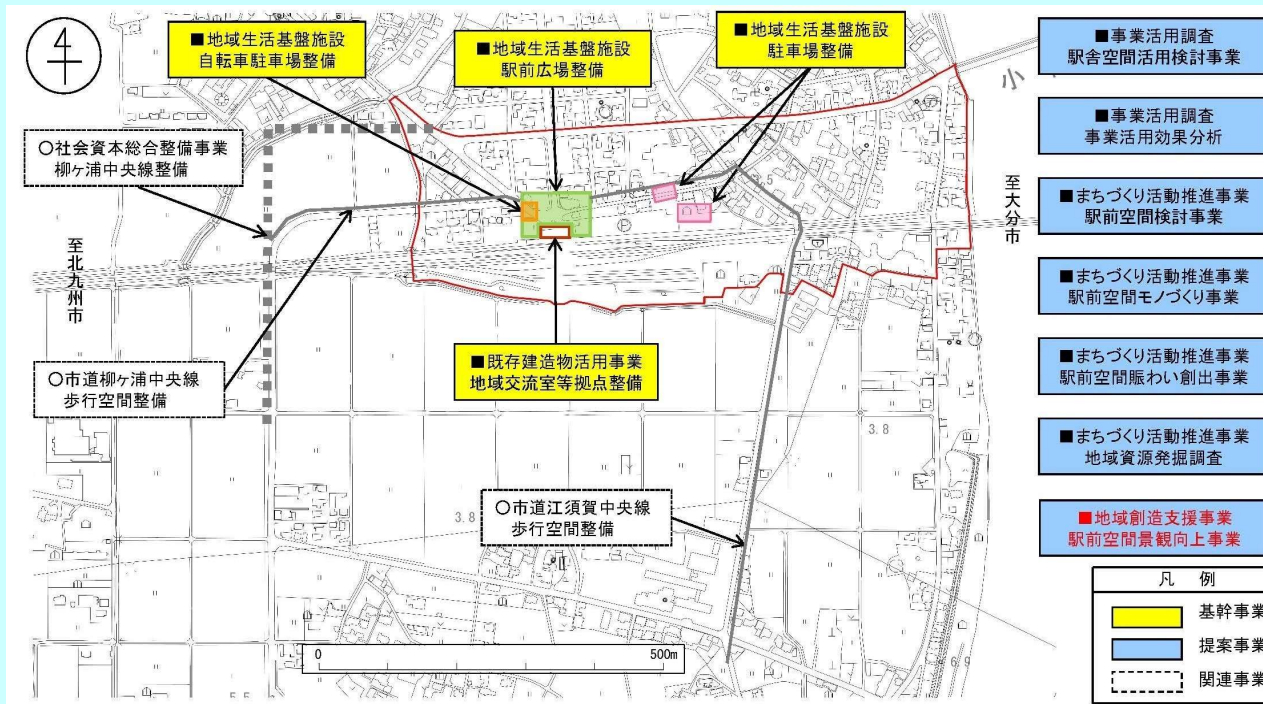
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県		市町村名		宇佐市		地区名		JR柳ヶ浦駅周辺地区			面積	21.2ha		
交付期間	平成30年度～令和4年度		事後評価実施時期		令和5年度		交付対象事業費		737.8百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名														
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(JR柳ヶ浦駅前広場、市営柳ヶ浦駅前駐車場、柳ヶ浦駅前駐輪場)、既存建造物活用事業(地域交流室等拠点整備)												
		提案事業	事業活用調査(駅舎空間活用検討事業、事業活用効果分析)、まちづくり活動推進事業(駅前空間モノづくり事業、駅前空間賑わい創出事業、地域資源発掘調査)												
	事業名													削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし												
		提案事業	なし												
新たに追加した事業	基幹事業	なし													
	提案事業	地域創造支援事業(駅前空間景観向上事業)							駅舎周辺ルーバ柵設置工事:JR九州との協議を受け安全対策上の追加工事			影響なし			
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和4年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更														
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	駅舎及び駅前広場利用者満足度	%	21	H28	60	R4	モニタリング	評価値	76.2	○	あり なし	駅舎リニューアルによって、待合室の快適性、満足度増に大きく寄与している。	R6年8月～10月頃	
	指標2	JR柳ヶ浦駅乗降客数		465,415	H24～H28(5ヶ年平均)	465,400	H30～R4(5ヶ年平均)			398,288	△	あり なし	令和2～4年の平均乗降客数を評価値としているが、コロナ禍によるJR利用者減が大きく影響している。	R6年8月～10月頃	
	指標3	駅周辺での市民活動回数	回/年	4	H28	12	R4			19	○	あり なし	新たに整備された駅多目的室を利用した一般市民活動(19回)により目標値の大幅増に寄与している。さらに地元住民組織による駅舎の清掃活動もほぼ毎日行われている。	なし	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	「JR柳ヶ浦駅周辺地区デザイン検討会議」による継続的な事業進捗等の確認		D会議7回 設計WG会議9回	H27～H29					D会議3回 設計WG19回			学識者・専門家・事業者・行政による検討体制を継続することによって、事業に高質空間の実現に寄与している。		
	その他の数値指標2	地域の担い手と次世代の担い手たちとの活動や連携		0	H29					13回			駅周辺モノづくりWSを通じて、事業前には無かった市内高校生と地域住民との連携・協力体制が生まれている。		
4)定性的な効果発現状況	JR柳ヶ浦駅舎の利用者数の変化														
5)実施過程の評価	実施内容														
	モニタリング	なし											実施状況	今後の対応方針等	
	官民連携による取組	・JR柳ヶ浦駅周辺モノづくりワークショップの開催 ・JR柳ヶ浦駅舎内トイレ整備ワークショップの開催 ・JR柳ヶ浦駅周辺地区記憶遺産ワークショップの開催、等							都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ●		公民連携体制の母体として、地域住民・高校生らの連携体制による多様な活動を支援する。	
持続的なまちづくり体制の構築	地域住民団体や近隣高校生等が参加するまちづくりプラットフォームの構築							都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ●		駅前空間の維持管理、利活用、運営を行う主体的な体制づくりを検討し、その取り組み等を支援する。		

様式2-2 地区の概要

JR柳ヶ浦駅周辺地区(大分県宇佐市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:北口駅前広場周辺整備により人や機能の集約を図り“安全で・心地よい交流拠点”を創出する 目標1:誰もが集える空間を創出し、駅周辺の安全性を向上する 目標2:安心してアクセスできる空間を創出し、利便性を向上する 目標3:地域に誇りを持ち、愛着心が育まれる市民活動を活性化する	駅舎及び駅前広場利用者満足度	単位:%	21 H28	60 R4	76.2 R5
	JR柳ヶ浦駅乗降客数	単位:人/年	465,415 H24.28 平均値	465,400 H30~R4 平均値	398,288 H30~R4 平均値
	駅周辺での市民活動回数	単位:回/年	4 H28	12 R4	19 R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・既存建築物活用事業等によってJR柳ヶ浦駅舎がリニューアルされ、通過点であった駅前空間で憩い、集える駅利用者の居場所となり、良好な交通結節空間の再生につながっている。 ・地域生活基盤施設の整備によって、車交通の錯綜や歩行者の危険性が改善され、安全性・快適性が高まり、本市の玄関駅としてふさわしい駅前空間が創出されている。 ・本事業のプロセスを通じて、地域住民と市内高校生や市民グループ等との連携や協力体制が育まれている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・整備した駅前空間の管理体制を明確化し、快適性、清潔性等を維持していく。 ・駅利用者アンケート調査等によって、駅前空間の快適性や満足度は向上している一方で、駅前周辺における空き家・空き地等の活用を促進させるための方策等を検討する。 ・観光協会や商工会議所等との連携を強化させることによって、駅前空間の運営体制づくりに取り組んでいく。 ・駅南側における県道バイパス整備の進捗に伴い、駅周辺全体の土地利用の促進や回遊性の向上等のあり方について検討する。 ・本事業を契機として生まれた地域住民や市内高校生、市民グループ等の市民活動の取組を行政がサポートし、連携体制等を強化させていく。 ・地域住民と市内高校生や市民グループ等の取組を駅前空間から市街地全体のまちづくりへと波及させていく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	・JR柳ヶ浦駅前広場	・828.0	・A=5,180㎡	・569.8	・A=5,890㎡	レイアウトの変更による舗装面積の変更及び照明灯の設置数変更。駅舎前ルーバー柵設置を駅前公共空間の修景として行いたため、駅前広場整備へ変更。また、事業執行に伴い最終の工事費を見直した結果、工事費の減少となった。	・影響なし		●
	・市営柳ヶ浦駅前駐車場	・4.5	・A=1,300㎡	・4.2	・A=1,204㎡	事業執行による事業費の減少。区画線の台数減少は駐車場内の通行幅を十分に設けた結果、当初の予定台数より減少した。	・影響なし	●	
	・柳ヶ浦駅前駐輪場	・20.0	・A= 320㎡	・35.0	・A= 365㎡	レイアウトの変更による工事面積の変更。また、資材費の高騰により、当初の見積額より増額した。	・影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業	・地域交流室等拠点整備	・118.6	・A=212㎡	・99.0	・A=159㎡	駅舎前のルーバー柵設置を事業に組んでいたが、地域生活基盤施設の駅前広場整備にて事業の変更を行いたため事業費の減少とした。また、それに伴い工事面積が減少した。	・影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1. 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	駅舎空間活用検討事業	2.1	駅舎建物調査・活用方針策定	2.1			・影響なし	●	
	事業活用効果分析	8.5	事業効果検証、専門家会議等	6.4		・見積徴収による事業費の見直しに伴う減少	・影響なし		●
まちづくり活動推進事業	駅前空間検討事業	12.0	WS、シンポジウム、専門家会議等	11.5		・事業執行に伴う事業費の減少	・影響なし	●	
	駅前空間モノづくり事業	4.4	ストリートファニチャー制作	4.4				●	
	駅前空間賑わい創出事業	2.0	駅前空間活用検討	1.8		・事業執行に伴う事業費の減少	・影響なし	●	
	地域資源発掘調査	4.0	地域の記憶の発掘と記録作成	3.6		・事業執行に伴う事業費の減少	・影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
社会資本総合整備事業	柳ヶ浦中央線	市道柳ヶ浦中央線	718.0		H26～R2	H26～R8	整備中	
	市道柳ヶ浦中央線歩行空間整備事業	市道柳ヶ浦中央線	102.0		H31～R3	R9～R11	本線整備後に検討	
	市道江須賀中央線歩行空間整備事業	市道江須賀中央線	156.0		R2～R4	R8～R11	通学路対策事業終了後に検討	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	駅舎及び駅前広場利用者満足度	%	記録なし	21	H28	60	R4	モニタリング			モニタリング				
								事後評価	確定 見込み	●	76.2	事後評価	●	●	
指標2	JR柳ヶ浦駅乗降客数	人/年	476,784	H19	465,415	H24~H28 (5ヶ年平均)	465,400	H30~R04 (5ヶ年平均)	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	●	398,288	事後評価	▲	●
指標3	駅周辺での市民活動回数	回/年	記録なし	4	H28	12	R4	モニタリング			モニタリング				
								事後評価	確定 見込み	●	19	事後評価	●	●	
指標4								モニタリング			モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			事後評価			
指標5								モニタリング			モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・JR柳ヶ浦駅舎のリニューアルによって、アンケート調査に基づく駅利用者の満足度(居心地、利便性、安全性)は大きく増しており、目標値以上の成果を達成している。	・駅前広場工事完成後のフォローアップにより、駅前空間整備の満足度を再度アンケート調査等によって計測する予定である。駅前空間の「賑わい」づくりは今後の駅まちづくりの課題となる。
指標2	・当初の目標値を平成30年度～令和4年度の5ヶ年平均値(465,400人/年)を駅乗降客数と設定していたが、コロナ禍によって事業前までは年間1.2～2.4%減で推移していた駅乗降客数が、令和4年度には16%減まで大きく落ち込んでいる。	・左記の理由により、「指標2」については、平成30年度～令和4年度の5ヶ年平均値(465,400人/年)を達成値としたが、駅乗降客数は、14.5%減(398,288人/年)となっており、1年以内に乗降客数が達成する見込みはない。
指標3	・当初、年間4回だった市民活動が、JR柳ヶ浦駅舎リニューアル後は市民グループによる多様な利活用により増加した。さらに地域自治組織が主体となってほぼ毎日、清掃及び維持管理活動を行っており、その結果、目標値を大きく達成している。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1	「JR柳ヶ浦駅周辺地区デザイン検討会議」等による継続的な事業進捗の確認	延べ開催回数	0	H28	0	H28	0	H29	0	H29	・市民、事業者、行政、専門家によって策定された基本構想～基本計画に基づいて円滑かつ一貫性・一体性のある事業を推進するためのプロジェクトマネジメント組織として機能している。
その他の数値指標2	地域の担い手と次世代の担い手たちとの活動や連携	延べ開催回数	0	H28	0	H28	0	H29	0	H29	・本事業を契機として、地域住民、行政、市内高校との連携体制が生まれたことが、駅まちづくりを支えるサポート機能を果たしている。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

<p>「JR柳ヶ浦駅舎の利用者数の変化」 (整備前)・リニューアル前は、駅舎に冷暖房やWi-Fi等もなかったため、高校生らは校内で過ごし発車時刻直前になると駅へ駆け込む姿が多く見られていた。 (整備後)・リニューアルした駅舎において、発車時刻の20～30分前(特に夕刻時)には、高校生らが勉強やおしゃべり等で待ち時間を過ごすようになった。</p>

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・JR柳ヶ浦駅周辺モノづくりワークショップの開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】計8回 【実施時期】令和元年度～令和4年度 【実施結果】駅舎および駅前広場等で活用するベンチやテーブル等のモノづくりを市内高校生らと共に制作し、実際に駅舎内等に設置した。このプロセスによって駅利用者の満足度や利活用頻度の向上に資する結果となった。	・今後のまちづくりにおいて、構築された連携、協力体制を礎にして、積極的な市民の参画を促進する。
・JR柳ヶ浦駅周辺地区記憶遺産ワークショップの開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】計3回 【実施時期】平成30年度 【実施結果】駅周辺の身近な記憶を記録として留め、その情報を発信することで駅への愛着等を生み出すことを目的にワークショップを開催し、その成果として「JR柳ヶ浦駅記憶遺産」冊子を制作した。	・まちの記憶を呼び起こし、記録に留め、発信していくプロセスと手法は、今後のまちづくりにおいて様々な形で応用、展開することが期待できる。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
地域住民団体や近隣高校生等が参加するまちづくりプラットフォームの構築	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 市民、事業者、行政、専門家の協働による駅まちづくりのプロジェクトマネジメント体制の構築へ向けたデザイン検討会議や市民ワークショップ等の開催および連携	未定	まちづくりプラットフォームとなる母体組織の活動によって、より持続的なまちづくり体制を構築していくことを模索中である。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
JR柳ヶ浦駅周辺地区整備事業庁内連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> ●アドバイザー・吉武哲信(九州工業大学教授・JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議委員長) ●庁内関係課(総合政策課、商工振興課、観光・ブランド課、社会教育課、土木課、都市計画課) 	令和5年10月16日	宇佐市建設水道部都市計画課 (都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標3		その他の指標1		その他の指標2		
指標名		駅舎及び駅前広場利用者満足度		駅周辺での市民活動回数		「JR柳ヶ浦駅周辺地区デザイン検討会議」による継続的な事業進捗等の確認		地域の担い手と次世代の担い手たちとの活動や連携		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	<地域生活基盤施設> ●JR柳ヶ浦駅前広場 ●市営柳ヶ浦駅前駐車場 ●柳ヶ浦駅前駐輪場	◎ ◎ ◎	WS等で市民意見を積極的に取り入れ利用者にとって居心地の良い駅前空間を再生してきたことにより、利用者の満足度が大きく向上した。駅前広場の使い心地等については、工事完了後に改めてアンケート調査を行い、利用者の満足度を計測することとする。	◎ ◎ ◎	駅舎空間のリニューアルによって、特に多目的室においては、多様な市民活動の場として利用されるようになった。	◎ ◎ ◎	計画設計段階から工事進捗に至るまで、一貫して事業の進捗度のチェックと関連事業との相互調整及び市民参加機会の促進をマネジメントすることで、一体感のある駅前空間の再生が行われた。	◎ ◎ ◎	計画段階から、市内高校生や地元住民に意見聴取しながら、駅前空間に設置するベンチやテーブル等を制作するWSと一緒に開催したことで、相互の連携体制が構築された。	
	<既存建造物活用事業> ●地域交流室等拠点整備	◎								◎
	<事業活用調査> ●駅舎空間活用検討事業・駅舎建物調査、活用方針策定 ●事業活用効果分析・事業効果検証、専門家会議等	◎ ○								◎ ○
提案事業	<まちづくり活動推進事業> ●駅前空間モノづくり事業・WS、シンポジウム、専門家会議等 ●駅前空間賑わい創出事業・ストリートファニチャー制作 ●地域資源発掘調査・地域の記憶の発掘と記録作成	◎ ◎ ○		◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎		◎ ◎ ○		
	●社会資本総合整備事業・市道柳ヶ浦中央線	△		△		△		△		
	●市道柳ヶ浦中央線歩行空間整備事業・市道柳ヶ浦中央線 ●市道江須賀中央線歩行空間整備事業・市道江須賀中央線	△ △		△ △		△ △		△ △		

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

一：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確

なので、評価できない。

今後の活用	今後も市民ニーズに応える安全・安心な公共空間の維持に努め、運営体制を確立し、まちの賑わい再生をめざしていく。	多様な市民グループの活動や発表の場としての駅前空間の利活用を促進することで、地域住民や高校生らと来訪者の交流機会を拡げていく。	今後の駅周辺及び市内まちづくりに取り組んでいく上で、本事業のようなマネジメントの組織体制を応用していくことは有効である。	地域住民と市内高校生等との連携体制を拡大させることで、市民が積極的に参画できるよう促進していく。
-------	--	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2			指標○		指標○		指標○						
指標名		JR柳ヶ浦駅乗降客数													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	<地域生活基盤施設>			Ⅲ											
	●JR柳ヶ浦駅前広場	△	コロナ禍の影響により、JR利用者が大きく減少し、目標値を達成することが出来なかった。令和元年度までは、微減しつつも横ばい状態だったが、アフターコロナにおけるライフスタイルの変化等も生じており、令和5年度以降に利用者数が大きく回復することは期待しにくい状況にある。												
	●市営柳ヶ浦駅前駐車場	△													
	●柳ヶ浦駅前駐輪場	△													
<既存建造物活用事業>															
●地域交流室等拠点整備	△														
提案事業	<事業活用調査>														
	●駅舎空間活用検討事業・駅舎建物調査、活用方針策定	△													
	●事業活用効果分析・事業効果検証、専門家会議等	△													
	<まちづくり活動推進事業>														
	●駅前空間モノづくり事業・WS、シンポジウム、専門家会議等	△													
	●駅前空間賑わい創出事業・ストリートファニチャー制作	△													
関連事業	●地域資源発掘調査・地域の記憶の発掘と記録作成	△													
	●社会資本総合整備事業・市道柳ヶ浦中央線	△													
	●市道柳ヶ浦中央線歩行空間整備事業・市道柳ヶ浦中央線	△													
	●市道江須賀中央線歩行空間整備事業・市道江須賀中央線	△													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	柳ヶ浦駅前空間のリニューアルにより、公共交通の充実を図ることで鉄道利用者の促進を図っていく。また、JR九州と連携したイベントやキャンペーン等を展開することで、鉄道利用者を少しずつでも回復させていく。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
JR柳ヶ浦駅周辺地区整備事業庁内連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> ●アドバイザー・吉武哲信(九州工業大学教授・JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議委員長) ●庁内関係課(総合政策課、商工振興課、観光・ブランド課、社会教育課、土木課、都市計画課) 	令和5年 10月 16日	宇佐市建設水道部都市計画課 (都市再生整備計画事業担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
安心・安全な駅前空間の再生	地域生活基盤施設の整備によって、円滑な駅前交通の動線処理が実現し、安心・安全な駅前空間が再生された。		駅前周辺土地利用の有効活用や駅前空間における維持管理・運営主体の公募等によって、賑わいある駅前空間の醸成が求められる。
利便性・快適性の高い駅前空間の創出	地域生活基盤施設の整備や既存建造物活用事業によって、駅利用者の満足度が向上し、利便性・快適性の高い拠点空間として再生された。	駅前空間の賑わい再生へ向けた周辺地区の土地利用の促進方法等について検討する必要がある。	
市内外の人々の活動・交流の場としての利活用の促進	多様なニーズに応えられる駅前空間の整備によって、鉄道利用者以外の市民グループによる利活用が促進され、市民と来訪者の交流機会の創出が図られている。	再生された駅前空間において市民活動等、より活発な利活用を促進するためのPR展開が求められる。	
市民のまちづくりへの参画意識の向上	モノづくり事業や賑わい創出事業等によって、地域住民と市内高校生等との連携体制が構築された。	駅前空間の維持管理・運営を担っていく主体の明確化が求められる。	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	リニューアルした駅前空間の利活用促進と維持管理	リニューアルした駅前空間の利活用を市民に促進するとともに、維持管理及び運営体制を明確化する。	・駅前空間の積極的な利活用・維持管理 ・市民が主体となった駅前空間の運営体制の支援
	地域住民と来訪者との交流促進	駅前空間においてイベント等を積極的に開催し、地域住民や市民グループと来訪者との交流機会の促進を図る。	・駅前空間を舞台とした交流イベント等の開催支援 ・市内観光案内等との連携による利活用と情報発信の促進
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	駅前空間における安心・安全な環境の形成	駅周辺における道路ネットワークの形成(市道柳ヶ浦中央線等の整備促進による駅前空間からの通過交通の排除等)	・社会資本総合整備事業(市道柳ヶ浦中央線整備)の促進
	駅前空間における適正な土地利用の誘導	駅前空間における空地等を改善し、適正かつ賑わいづくりに資する土地利用の誘導を図る。	・駅前空間の土地有効活用および賑わいづくりへ向けた地権者や居住者、駅利用者等のニーズ把握

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

本市の玄関駅にふさわしい駅前空間の再生は図られたが、今後は市内外の多くの人々による利活用と交流機会を促進するとともに、駅周辺地区の適正かつ有効的な土地利用の誘導や高質な駅前空間を維持・運営するための公民連携による体制づくりを推進していく必要がある。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値			評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度			年度	年度	年度	予定時期	計測方法
指標1	駅舎及び駅前広場利用者満足度	%	21	H28	60	R4	R4	確定 見込み	● ●	76.2	○	あり なし	→	R6年5~10月	イベント開催時に、参加者へアンケート調査を実施し、確定値を求める	
指標2	JR柳ヶ浦駅乗降客数	人/年	465,415	H24~H28 (5ヶ年平均)	465,400	H30~R4 (5ヶ年平均)	H30~R4 (5ヶ年平均)	確定 見込み	● ●	398,288	△	あり なし	→			
指標3	駅周辺での市民活動回数	回/年	4	H28	12	R4	R4	確定 見込み	● ●	19	○	あり なし	→			
その他の数値指標1	「JR柳ヶ浦駅周辺地区デザイン検討会議」による継続的な事業進捗等の確認	回/年	D会議7回 設計WG 会議9回	H27~H29	/			確定 見込み	● ●	D会議3回 設計WG19回			→			
その他の数値指標2	地域の担い手と次世代の担い手たちとの活動や連携	回/年	0	H29	/			確定 見込み	● ●	13回			→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・駅前広場の工事完成前ではあるが、駅舎再生による「利用者満足度」「市民参画機会の促進」等は大幅に向上することができた。	・長期間の事業のため、コロナ禍等の不測の事態発生にも配慮した数値目標の設定とそれを補完する「その他の数値目標」についても計画段階から検討しておくことが望ましい。
	うまくいかなかった点	・交付期間中の「駅乗降客数」は、コロナ禍による影響で大幅に数値が落ち込み目標を達成出来ていないが駅前空間の「賑わい再生」及び交通結節点としての「公共交通の活用」等と合わせて時間をかけて事業完了後のフォローアップをしていくことが望まれる。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・本事業により高質な駅舎空間の再生を行ったことで、課題であった利用者の「安全・安心感」「居心地の良さ」「利便性の向上」が格段に向上した。	・数値目標達成へ向けた努力のみならず、事業完了後の運営・維持管理等も含めて持続可能な体制づくりにも配慮した事業への取組が望まれる。
	うまくいかなかった点	・駅前空間の「賑わい再生」に関しては、駅前の空き地等の有効活用には未だ結びついておらず、今後継続的なイベント等の開催により「人々が集う駅前空間づくり」の運営体制の確立と民間事業等との連携が望まれる。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・基本構想段階から地域住民によるワークショップかつ交付期間中も「記憶遺産」「モノづくりワークショップ(提案事業)」を継続的に開催し、市内高校生等の参加を促進したことで、駅への愛着心醸成に寄与することができた。	・事業交付前(計画段階)からまちづくりへの市民参画機会を促進し、事業効果を高めるための下地づくりを行っていくことが有効である。
	うまくいかなかった点	・駅前空間の利活用が十分ではないが、事業完了後も継続的な各種イベント開催や周辺の「戦争遺構巡り拠点施設・宇佐空の郷」等との連携により、人々が立ち寄る駅前空間の形成に努める必要がある。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・基本構想段階から設置した「JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議」を継続的に開催し、モニタリングに代わり交付期間中の事業進捗をマネジメントすることによって事業効果の確認をすることができた。	・事業進捗度の確認と改善方法等を協議するプロジェクトマネジメント体制の構築は有効である。
	うまくいかなかった点	・工事完成後の事業全体のチェック&アクションがまだされていないため、フォローアップ調査等により事業効果の発現度を再確認することが望まれる。	
その他	うまくいった点	・駅舎空間の再生によって、ヘビーユーザーである地元高校生の駅での「過ごし方」の変化等、定性的な事業効果を確認することができた。	・数値では測れない定性的な効果発現が事業成果に有効であることから、これらの可能性を計画段階から検討し、そのための事業的な仕組みや参画機会の促進(提案事業化)に柔軟に対応できる様にすることが望まれる。
	うまくいかなかった点	・定量的な事業効果の発現のみならず、「賑わい」や「居心地良さ」「過ごし方」等の定性的な効果発現を把握するために、そのプロセスをもっと丁寧に記録しておく方が良かった。	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・特に予定していない。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	宇佐市役所ホームページ	令和5年11月13日 ～令和5年11月24日	令和5年11月13日 ～令和5年11月24日	意見箱、電子メール	建設水道部 都市計画課 (都市計画・高速道係)
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	JR柳ヶ浦駅待合室及び宇佐市都市計画課にて閲覧	令和5年11月13日 ～令和5年11月24日	令和5年11月13日 ～令和5年11月24日		

住民の意見	ホームページ閲覧回数94件。意見はなし。				
-------	----------------------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	・吉武哲信(九州工業大学教授・JR柳ヶ浦駅周辺地区デザイン検討会議委員長)	令和5年12月15日(金)	宇佐市都市計画課 (都市再生整備計画事業担当課)	JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議開催要綱	JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議
その他の委員	・河合豊彦(宇佐商工会議所・事務局長) ・久保文典(宇佐市観光協会・事務局長) ・谷 昌之(JR九州・中津駅長) ・河村正一(柳ヶ浦アーバンデザイン会議・議長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・委員および周囲市民からも高く評価されている。
	実施過程の評価	・JR乗降客数の数値目標は達成されなかったが、駅の利用実態を見ると、鉄道利用者は増えている傾向が感じられ、今後の経過を観察したい旨の意見が出された。
	効果発現要因の整理	・地元高校生と地区住民の連携によるワークショップ開催等の実績は、今後のイベント開催等の原動力になるとの意見が出された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・市HPによって事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認されたが、HP閲覧数も記載した方が分かりやすい。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて、内容を確認し、妥当であるとされた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・駅周辺の賑わい再生へ向けた利活用の促進や適正な土地利用の誘導等の記載
	フォローアップ	・工事終了後の下水道や周辺道路整備(ハード面)と駅前利活用(ソフト面)の両面からフォローアップを継続していく必要がある。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、内容を確認した上で、にぎわい再生等の課題は残されているが、記載内容は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
星野裕司・熊本大学工学部社会環境工学科 景観デザイン研究室 教授	令和6年1月31日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)
永村景子・日本大学生産工学部環境安全工学科 准教授	令和5年12月25日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

有識者の意見	<p>【星野裕司教授の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳ヶ浦駅および駅前広場は大きな変貌を遂げたが、特筆すべきは、その様子がとても自然だということだと考えている。 ・その要因として、「指標4:「JR柳ヶ浦駅周辺デザイン検討会議」等による継続的な事業進捗の確認」で示された丁寧なデザインの議論が挙げられる。 ・加えて、木質化された待合室等に人がいる風景が生じていることも、上記の自然さを印象付ける要因となっている。これは、「指標3: 駅周辺での市民活動回数」や「指標5: 地域の担い手と次世代の担い手たちとの活動や連携」で示されたソフト事業の展開を通じた効果(直接的とは言えないとしても)だと考える。 ・今後、乗降客が劇的に増えていくことは想像できない。しかし、鉄道利用者ではない人々の駅前空間の利用を増やすことはできるだろう。そのためにも、駅前広場の市民を巻き込んだ積極的な利活用や周辺民地の開発など、継続的なまちづくり活動が必要であろう。
	<p>【永村景子准教授の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR柳ヶ浦駅に降り立った際の印象は、都市再生整備計画事業に取り掛かる前、2015年頃の状況と明らかに変わった。ホームや待合室の木質化が進み、設えが変わったハード面は一目瞭然であるものの、肌感覚として「人が増えた」と感じる事が出来る。 ・「指標2: JR柳ヶ浦駅乗降客数」の数値は減少しているにもかかわらず、こうした印象を抱くのは、乗降客数にカウントされない人の往来や滞留の変化が効果として発現したと考えられる。 ・「指標3: 駅周辺での市民活動回数」は従前値はもちろん、目標値の1.5倍を上回るのみならず、数値には記されていない市民活動や地域自治組織による清掃・維持管理活動を創出し、当該空間の環境の質を高めている。 ・その結果、「指標1: 駅舎及び駅前広場利用者満足度」も目標値の1.25倍に達している。これらは都市再生整備計画に記載のなかった官民連携の取り組みや、持続的なまちづくり体制など、ハードのみに頼らない、継続的なソフト施策の効果も大きい。 ・多くの地方都市において、人口減少・少子高齢化や、公共交通の利用者減少は深刻化しており、その解決を、多額の公共投資を伴うハード整備に託す地域は少なくない。JR柳ヶ浦駅および周辺事業は、その投資効果を高めるソフト施策にも真摯に取り組んだ点も、併せて評価すべきといえる。今回整備した空間をより豊かな環境へと育むこと、さらには整備範囲の周辺のまちへと今回の投資効果を拡げられるよう、継続的なまちづくりの取り組みや、他の事業や適切な都市計画方策への展開が期待される。